

梅木加津子 議員

(一括質問方式)



- ① J R 伊予大洲駅の利便性と活用促進
- ②大洲高校と大洲農業高校の統合問題
- ③地域公共交通計画の実施
- ④空き家取得費補助金のあり方
- ⑤水道料金の値上げ

J R 伊予大洲駅駐輪場の整備について

問 屋根つき駐輪場整備について、事業費等の懸念も示されていたが、市民団体による署名活動も実施されるなど多くの市民から要望も出ている。駅利用の促進にもつながるものと考えが、早急に対応するつもりはないか。

答 過去に市営住宅などの公共施設で整備した屋根つきの駐輪場の建設費を参考にとすると、J R 伊予大洲駅の駐輪場100mから150mの間に同程度の駐輪場を整備した場合、諸経費等を含め2,000万円から3,000万円程度の整備費がかかるものと試算しています。管理費として想定される経費は、駐輪場の清掃、維持・修繕経費のみならず、放置自転車の保管・撤去の経費など放置自転車対策経費も考慮する必要があります。

その他、J R 四国の敷地内での整備となることから、設置する位置や範囲、整備費の負担費用、借地料の負担の問題など、今後のJ R 四国との協議項目も多くあります。

なお、屋根つき駐輪場の整備要望について、先日9月4日に市民団体の方々によって780人の署名を集められ、本市へ提出いただいたところであり、多くの方が要望されていることは、しっかりと受け止めたところです。早期の着手は諸課題があり困難と考えていますが、計画的に順次検討していきたいと考えています。

大洲高校（新校）魅力化応援に関する座談会について

問 8月に大洲高校（新校）魅力化応援に関する座談会が開かれ、高校の魅力とは何か、魅力化をどの

ように応援できるか情報共有としているが、具体的にどのような応援や内容を検討していくのか。

答 8月18日の座談会では、まず大洲高校と大洲農業高校の校長先生から両校の学校の概要や現状を説明いただくことで、生徒の様子や進学実績、部活動との両立など、生徒の現況の理解を深めました。2回目となる8月23日には、「高校3年間における魅力化を応援する」と題し、職業・学科横断的な学びに関する連携グループとして、産業、経済、市議会から参加いただいた方々に、それぞれの立場から提案と意見交換を行っています。

後日開催予定の「高校入学前、卒業後における応援」と題した地域との協働に関するグループは、教育、地域連携、社会共創に携わるメンバーの参加によって、例えば中学生が受験校を選ぶ際、何をポイントにしているか、また、高校卒業後、大学進学や就職で大洲市を離れた若者が故郷大洲への愛着を持ち続けることなど、出席者それぞれの立場で提案・意見が出てくるものと考えています。

空き家取得費補助金のあり方について

問 本補助金を受けるには、地域住民との協調で区入りをすることが条件の1つとして書かれている。区入りの促進と補助事業は切り離して考えるべきと思うがいかがか。

答 空き家取得費補助金は、空き家バンクの登録物件を取得し、5年以上居住する意思がある60歳未満の移住者や、市内に住所を有する50歳未満の子育て世帯に対して、補助率10分の1、最大25万円から100万円を交付することができる制度です。

本市では、平成27年に市民等が身近な課題を解決し、その実情に応じて自主的なまちづくりを進めることを目指し、大洲市地域自治推進条例を制定し、自治会、市民等、市の役割を明記しており、市が区入りを促進し、市民等は区入りに努めていただくこととしています。

ごみ捨てをはじめとした地区のルールを守り、住民がお互いに協力しながら暮らしていけることを目的としたものとしているため、この区入りのことが空き家問題解消のハードルになっているとは考えていません。